

学校名	千葉県市川市立福栄小学校
授業者	中里 亮久

## 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

### 1-1. 単元名

福池の復活～福栄から自然を豊かにしよう～

### 1-2. 学年

6年

### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

### 1-4. 単元の概要

本学習材の特性と児童の実態を踏まえ、第1次では、「ビオトープ（福池）」の興味・関心をより高めるほか、本当に福栄小学校にビオトープは必要なのかを考えさせるために、実際に「福池」を造った中学生をゲストティーチャーに迎えたり、昔からこの土地に住み行徳一帯の様子を知る人を招いたりして学習意欲を高めるとともに、「福池」を復活させる必要性（課題）を感じさせたい。先輩たちがなぜ、「池」を作ろうと思ったのかを知ることで、単に、ビオトープ作りをするのではなく、先輩の「思い」を受け継ぎ活動するという課題が見えてくるはずである。

さらに「ビオトープとは何か」をそれに加えて調べることで、本学級の児童の課題である「探究する力」の育成を目指したい。課題を見つけ、見通しを持って計画を立てる力を育てたい。実際にゲストティーチャーを招く際は、「目的を明確にする」を心がけ、自分達で連絡を取り合い、表現力とコミュニケーション能力も併せて養いたい。

第2次では、「福池」の復活にあたって、見通しを明確にさせるために、企画書を書く活動を取り入れる。「何を、どの順番で、何が、どのくらい必要か」など、設計図も含め、自分達が造るために様々な準備が必要だと気付かせたい。それに気付き、整理させる活動を通して、自らの行為に意思決定をさせていく。意思決定した後にグループで話し合い、他者の意見も柔軟に受け入れられるようにしていきたい。また自分達の作った企画書や設計図を基に着工し、他者と協働する力を養っていきたい。

第3次では、実際に完成した「福池」を在校生や地域に発信する活動を取り入れる。自分たちはなぜ「福池」を復活させようと思ったのか、またこの先の自分達が望む「福池」の在り方を、全校児童や、復活に携わってくれた人達に伝える。そういった活動が、自分の生き方を考えるきっかけになり、今後の時代を生き抜く力が養われていくだろう。

学校教育目標の中にもある、「サファリな子」の育成のために、また変化の激しい21世紀をたくましく生き抜く力を養うために、課題を自ら見つけ、それを解決するまでの見通しを自らが立て、それを実行する。そしてそれらを振り返ることで、次に課題が見つかった際に、迷うことなく課題解決に導ける力が付くと考える。そういった資質・能力が育っていくことを単元では存分に実感でき、自信に繋げられるよう支援・指

導をしていきたい。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

ビオトープとは、「野生生物の生息する空間」のことである。ビオトープと聞くと水辺の生き物が生息している小規模な池というイメージだが、そうではなく、生態系を捉えることの可能な地域と定義されている。そのことから、水辺の生物が生きられる環境を人工的に創り出すことで、その周りの自然環境も豊かになっていくと考えられている。1970年頃から、ドイツ国内にある庭園、公園、河川敷などに、湿地帯、草地、林などをつくり、野生生物を呼び戻そうという活動がさかんになり、これがビオトープの関心を高めた。ビオトープは本来、狭小化してしまった在来の生態系を中心にしてもよく、また小面積でも野生生物が豊かな自然環境をつくりあげればよいとされている。

福栄小学校には、数年前から「福池」と称されるビオトープがある。数年前の卒業生が、卒業前の総合的な学習の時間の中で、何か未来の在校生に残せるものはないかと話し合っって造り上げられたものである。その中で、当時の6年生が未来の福栄小学校がどうあって欲しいのかを考え、自分達にできることとして福池（ビオトープ）が案に上がった。元々住宅街に囲まれたこの学校には自然環境が少なく、少し学区を離れた所には野鳥観察舎があったが、自由にいつでも誰でも観察できる環境ではない現状であった。学校に野鳥観察舎の様な自然観察の出来る場所があれば学習にも役立ち、福栄小に緑が増え、たくさんの生き物がやってくると自然が豊かになるという思いから造られたようだ。しかし、そんな思いや願いが残念ながら在校生へは受け継がれず、昨年枯渇してしまった。

本年度の6年生は、当時「福池」造りに携わった卒業生の弟や妹が多く在籍し、関心は他学年よりも高い。さらには生き物が好きな児童が多い。そのことから先輩の思いを汲み取り、福池の復活をすることで、自分達が未来の在校生に向けて、またかつてこの福池を造った卒業生に思いを伝えたいと皆が思っている。福栄小学校の「福池」を復活させたいという児童の思いには、「学校に緑を増やしたい」、昔の福栄の地域の様子に近づき「福栄から自然を豊かにしたい」という願いが込められている。また、様々な人達が関わってできたはずの「福池」が、枯渇してしまい残念に思っている下学年の思いに対して「なんとかしてあげたい」という強い願いも込められている。それらを学び、実行することで、物を大切にする心や、生きていく上で、自然が必要不可欠な事に気付けるはずである。さらには、人の思いや、自然の大切さを学ぶことができるといった価値がこの教材には含まれていると考える。

これらの学習を進めていくことで、生き物の大切さ、水辺の生き物の多様性などに気付き海へと発展させていきたい。そして海の生態も大切にしていけることで、やがて自分たちの体に返ってくることを感じさせたい。

#### 1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・課題設定の力
- ・コミュニケーション能力
- ・課題解決の力

#### 1-7. 単元の展開（全50時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
----	-----------	------------------------------

<p>○題材にふれる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福池の観察を行う</li> <li>・福池がなぜ学校に必要なのかを話し合う</li> <li>・4年生で行った鳥獣保護区の振り返りをする</li> <li>・中山小のビオトープを観察しに行く</li> <li>・中山小学校以外のビオトープを観察しに行く</li> <li>・本物に触れた後で、本当に福池が必要なのかを再度話し合う</li> <li>・学習の発展により必要なゲストティーチャーを招き、話を聞く（古くから福栄に住んでいる人・福池を造った先輩方）</li> </ul> <p>○福池の課題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体でベン図に書き込んでいく</li> <li>・ベン図シートから見えてきたことを整理して次の課題を見つける</li> </ul> <p>○ウェビングシートで見えてきた課題をパソコンや本を使って調べる</p> <p>○ウェビングで見えてきた課題を解決するために市川市役所の生活環境整備課の人をゲストティーチャーで招き話を聞く</p>	<p>◎安全に注意させ、「どこを・何を」を明確にさせてから観察をさせる。</p> <p>◎先輩達が池を造った時の気持ちを考えさせる。</p> <p>☆1-① 2-①ワークシート（聞いたこと・調べたことから自分なりの課題を見つけることができる）</p> <p>※課題を見つけられない児童へは、質問形式で課題へと繋げられるヒントカードを渡す。</p> <p>☆1-② ベン図シートを使って中山小と福栄小の自然の様子を比較・分類分けをする（課題設定の力）</p> <p>◎今後の学習につながる情報はメモを取り、蓄積できるようにする。</p>
<p>○「福池」復活のために情報収集をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビオトープを造るにあたり必要な材料を調べる</li> <li>・福池に必要な道具をどこから調達するかを調べる</li> <li>・調べた物を集め、情報を整理する</li> <li>・計画書を作る</li> <li>・着工する手順を決める</li> </ul> <p>○実際に着工する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画書を基にそれぞれの分担を決定する</li> <li>・計画書を基に作業する</li> <li>・造園技師さんをゲストティーチャーとして招き池造りに必要な知識を教えてもらいながら活動をする</li> </ul>	<p>☆2-① 情報収集・ワークシート</p> <p>☆2-② 情報収集・ワークシート</p> <p>☆2-③ 計画書・ワークシート （問題解決の見通しを持ち、計画を立てることができる）</p> <p>※計画書を作ることが難しい児童もいたため、学級で1枚にまとめる</p> <p>◎設計図はある程度の範囲をこちらで用意する。</p> <p>☆2-④ 設計図ワークシート</p>

<p>○復活した福池を残していくために必要な事を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ福栄小学校に福池が必要なのかを再確認する</li> <li>・それをなぜ在校生に伝える必要があるのかを話し合う</li> </ul> <p>○全校へ向けて情報の発信をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の準備をする（発表方法を考える）</li> <li>・何らかの形で全校に発信する</li> </ul> <p>○この学習で学んだことを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の学習で学んだことは何かを考える</li> </ul>	<p>◎本来の「福池」の意味、自分達がなぜ復活をさせたのかを明確にさせる</p> <p>◎「福池」の完成で燃え尽きてしまわないように次の課題を見出させる</p> <p>☆3-① ワークシート</p> <p>☆3-② ワークシート</p> <p>☆3-③ ワークシート</p> <p>☆3-④ ワークシート</p> <p>※書き出しが苦手な児童には一問一答形式で手助けをする</p>
---	---

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

- 集めた情報を整理・分析することができる
- 課題に沿って考え、解決の方法を考えることができる

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1. 中山小学校に行った事の振り返りと本時の目標を確認する。  2. 学習課題を確認する。	◎見学したことを思い出すために写真を出す（1枚）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             中山小の中庭を見学して福栄小の課題は何かを考えよう           </div> 3. 中山小学校の中庭はどんな様子だったのか話し合う ○中山小にあって福栄小に無い物は何だろう またその逆も考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> <li>・木が多い（緑が多い）</li> <li>・池があった（囲われた頑丈は池）</li> <li>・花壇は両方にある</li> <li>・昆虫の種類や数の多さが違う</li> <li>・日当たりは福栄小の方が良さそうだ</li> <li>・温室は福栄小には無い</li> <li>・チョウの小屋も福栄小には無い</li> </ul> 4. 福栄小に取り入れられそうなもの、取り入れるべき物は何かを全体で話し合おう <ul style="list-style-type: none"> <li>・池は作れる</li> <li>・花壇を造ること</li> <li>・池を広くすること</li> <li>・区画を整理すること</li> </ul>	◎中山小学校の中庭にあって福栄小には無い物を考える。 ◎ベン図シートにグループで書き込む ◎ベン図シートを見ながら発表する。 ☆ベン図シート①（情報整理） ◎その時の写真や動画を見せる （追加があれば板書に記す）  ☆ワークシート②（生かす力） ◎福栄小に足りない物は何か、あった方が良い、なくてはならないものを挙げさせる。 ◎福栄小の環境下で実現可能な物に精査させていく ◎理由も明確にする （だから必要だと言える理由）

<p>5. 何のためにそれらを造る必要があるのだろうかを 考える（福池復活の必要性を再確認する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福栄小に自然を増やしたいから</li> <li>・下級生の授業の役に立ちたいから</li> <li>・思い出に残したいから</li> <li>・生き物が住める環境を少しでも増やしたいから</li> <li>・絶滅危惧種を育てて、増やしたいから</li> </ul> <p>6. 本時の振り返りをして次の課題を考える</p>	<p>◎児童の発言を生かして次時の課題設定をする。</p>
--	-------------------------------

### 3. 今回の活動の自己評価

今回の学習で児童たちの生き物への関心の高まり、池造りに対する気持ちの成長を感じることができた。コロナウィルスの影響で結果的には最後まで単元を行うことができなかったが、海の生き物への関心を向けた児童が約半数になった。初めの、「池」だけでは海と結びつかなかったが、「生き物全体」として捉えた際、生き物は元々海から来たという結論に至ったことによって「海の保全」や「生態調査」に興味を持たせられるきっかけを作れたことは成果を感じる。

### 4. 今後の課題

今後の課題として、環境保全を考えるグループと生態調査を考えるグループに分けたときに最終的なゴール（お互いの合流地点）が明確でないため、その点をはっきりさせる必要がある。

2グループの考えのまとめをどこに発信するのか。  
（考えられることは地域への宣伝）（児童からでた願いの一つとして、全国への宣伝）

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし